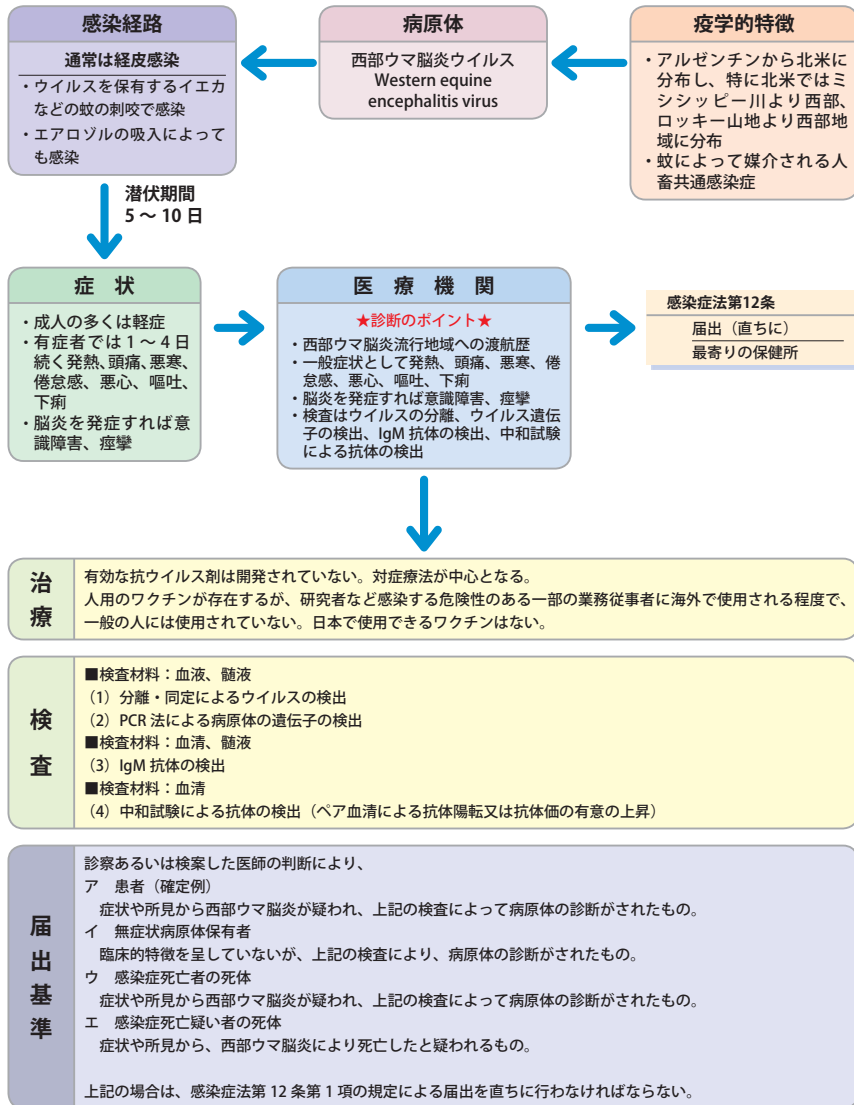


(17) 西部ウマ脳炎 ………四類感染症

Western equine encephalitis: WEE



参考図書

- (1) Nandalur M. Western equine encephalitis. <http://emedicine.medscape.com/article/233568-overview>
- (2) Beckham JD, Tyler KL. Encephalitis. Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases 8th Ed, Bennett JE, Dolin R & Blaser MJ ed., Elsevier Saunders. Philadelphia. 2015. 1144-1163.
- (3) Markoff L. Alphaviruses. Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases 8th Ed, Bennett JE, Dolin R & Blaser MJ ed., Elsevier Saunders. Philadelphia. 2015. 1865-1874.

発生状況 アルゼンチンから北米に分布し、特に北米(アメリカ合衆国・カナダ)ではミシシッピ川より西部に相当する地域、ロッキー山地より西部に相当する地域に分布する。蚊と鳥の間で感染環が維持されており、ウイルスを保有する蚊の刺咬によって馬や人へ感染する。

臨床症状 東部ウマ脳炎と比べると比較的軽症であることが多く、不顕性感染も多い。有症者では発熱、頭痛、悪寒、倦怠感、悪心、嘔吐、下痢などがみられるが、通常は数日で回復する。軽い感冒様症状で終わる場合もある。一部で脳炎を発症し様々な程度の意識障害や痙攣が見られる。脳炎発症率は有症者の10%以下と考えられている。脳炎例では3～4%あるいは4～10%の死亡率と推測され、乳児と高齢者で死亡率が高い。脳炎後生存者では神経学的な後遺症を残すことがある。

検査所見 検体：血液、髄液
 分離・同定による病原体の検出
 PCR法による病原体の遺伝子の検出
 検体：血清、髄液
 IgM抗体の検出
 検体：血清
 中和試験による抗体の検出(ベア血清による抗体陽転又は抗体価の有意の上昇)

病原体 トガウイルス科アルファウイルス属西部ウマ脳炎ウイルス(Western equine encephalitis virus)で、本ウイルスは東部ウマ脳炎ウイルス、ベネズエラウマ脳炎ウイルスの近縁種である。

感染経路 イエカ属の *Culex tarsalis* やセズジャブカ亜属の *Ochlerotatus albifasciatus* などの蚊と鳥の間で感染環が維持されている。人への感染はウイルスを保有する *C. tarsalis* などの蚊の刺咬による。実験室ではエアロゾルによる感染も起こり得る。

潜伏期 5～10日とされている。

行政対応 診断した医師は、直ちに最寄りの保健所に届け出る。

拡大防止 人用のワクチンが存在するが一般的でなく、日本でも接種はできない。媒介する蚊を駆除する。蚊の発生を防ぐためたまり水を除去する。感染地域に立ち入る場合は、虫除けを使用し長袖と長ズボンを着用する等、蚊に刺されないよう努める。

治療方針 有効な抗ウイルス剤は開発されていないので、症状に応じた対症療法が中心となる。